



平成28年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成28年4月6日
東

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所
 コード番号 9414 URL <http://www.bs11.jp>
 代表者（役職名） 代表取締役会長兼社長（氏名） 齋藤 知久
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員経営戦略局長（氏名） 平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900
 四半期報告書提出予定日 平成28年4月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有（証券アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成28年8月期第2四半期の業績（平成27年9月1日～平成28年2月29日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年8月期第2四半期	4,898	12.5	1,184	6.4	1,185	8.1	802	13.2
27年8月期第2四半期	4,354	15.4	1,113	27.2	1,096	19.9	708	△7.7
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
28年8月期第2四半期	45.07		—					
27年8月期第2四半期	39.81		—					

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年8月期第2四半期	14,807	13,622	92.0
27年8月期	14,942	13,087	87.6

（参考）自己資本 28年8月期第2四半期 13,622百万円 27年8月期 13,087百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年8月期	—	0.00	—	15.00	15.00
28年8月期	—	0.00			
28年8月期(予想)			—	17.00	17.00

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 平成27年8月期の期末配当金15円00銭には、東京証券取引所市場第一部指定記念配当金1円50銭が含まれております。

3. 平成28年8月期の業績予想（平成27年9月1日～平成28年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,200	15.1	2,000	2.0	2,000	4.6	1,350	11.0	75.83

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

28年8月期2Q	17,802,832株	27年8月期	17,802,832株
28年8月期2Q	94株	27年8月期	94株
28年8月期2Q	17,802,738株	27年8月期2Q	17,802,738株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府や日本銀行による経済・金融政策により、企業業績や雇用環境に改善が見られましたが、中東情勢の悪化や新興国の景気減速による伸びの鈍化、株価の下落や外国為替市場における円相場不安定な動き等もあり、景気の回復は依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の71.7%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しており、またBSデジタル放送事業を含む衛星放送メディア分野の広告費は前年比で1.5%の伸長、中でもBS放送の広告費は、前年比で4.0%増と堅調に推移しております（「2015日本の広告費」(株)電通調べ）。

このような状況下、当社は経営理念を「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します」とし、さらなる良質な番組制作を引き続き行いました。

平成27年10月の番組改編では、国民の役に立つ放送を目指して、尾上松也氏をメインに若手歌舞伎俳優が古地図を手に歴史を巡る『尾上松也の古地図で謎解き！につぼん探究』、人気タレントの関根勤氏が扮する“家電の神様”が最新家電製品の情報や便利な使い方をホームドラマ形式でお届けする『おしえて！家電の神様』、声優の久保ユリカ氏がアニメ・ゲームなどの情報を11の切り口で旬なゲストと共に紹介する情報番組『アニゲー☆イレブン！』を放送いたしました。平成27年10月には『JOCジュニアオリンピックカップ第34回全日本ジュニアバドミントン選手権大会』、『平成27年度全日本学生柔道体重別選手権大会』、同年11月には『第67回全日本馬場馬術大会2015 Part 1』を放送し、前年度から引き続きスポーツコンテンツの充実を図りました。

このほか、平成27年12月には、平成28年の世界大会に向けて盛り上がりを見せる佐賀国際バルーンフェスタの魅力をお伝えする『夢をのせて 熱気球 大空へⅢ～空の勇者たちの熱き闘い～2015 佐賀国際バルーンフェスタ』、大晦日には6時間にわたって『大晦日スペシャルアニメタイム』、平成28年1月には『新春 天皇ご一家と皇居の四季』を放送、特別番組にも積極的に取り組みました。

また、BS初登場の韓国ドラマとして『願いを言ってみて』、『清潭洞スキャンダル』その他話題のドラマ編成が、売上増加に寄与いたしました。

費用面につきましては、地方局との共同制作等コラボレーションを強化し、番組関連費用等の効率化に努めました。番組宣伝施策として、全国紙・地方紙への広告出稿を戦略的に実施いたしました。また、平成27年12月より、LINE公式アカウントを開設し、当社キャラクター「じゅういっちゃん」オリジナルスタンプを配布、500万人を超える登録がありました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は4,898,601千円（前年同期比12.5%増加）となりました。営業利益は1,184,963千円（前年同期比6.4%増加）、経常利益は1,185,622千円（前年同期比8.1%増加）、四半期純利益は802,413千円（前年同期比13.2%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産・負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ135,205千円減少し、14,807,075千円（前事業年度末比0.9%減少）となりました。主な要因は、現金及び預金が100,557千円減少したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ670,578千円減少し、1,184,401千円（前事業年度末比36.2%減少）となりました。主な要因は、未払法人税等が109,865千円、流動負債のその他が534,883千円それぞれ減少したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ535,372千円増加し、13,622,674千円（前事業年度末比4.1%増加）となりました。この要因は、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ100,557千円減少し、当第2四半期会計期間末には6,031,440千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、705,280千円(前年同期は858,678千円の獲得)となりました。これは主に法人税等の支払額481,342千円があったものの、税引前四半期純利益1,185,622千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、530,337千円(前年同期は73,722千円の使用)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出537,613千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、275,500千円(前年同期は233,444千円の使用)となりました。これは主に、配当金の支払額266,774千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年8月期の業績予想につきましては、平成27年10月7日付の「平成27年8月期決算短信」で公表しました業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年8月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,131,997	6,031,440
受取手形及び売掛金	1,499,318	1,551,237
番組勘定	91,213	38,437
その他	170,547	120,590
貸倒引当金	△100	△100
流動資産合計	7,892,978	7,741,606
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,491,749	2,457,112
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	307,287	351,822
有形固定資産合計	6,833,793	6,843,691
無形固定資産	18,799	18,835
投資その他の資産	196,710	202,942
固定資産合計	7,049,303	7,065,469
資産合計	14,942,281	14,807,075
負債の部		
流動負債		
買掛金	228,031	213,291
未払法人税等	514,300	404,434
その他	1,040,621	505,737
流動負債合計	1,782,953	1,123,463
固定負債		
退職給付引当金	41,074	43,231
その他	30,951	17,706
固定負債合計	72,026	60,937
負債合計	1,854,979	1,184,401
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,198	4,183,198
資本剰余金	3,516,989	3,516,989
利益剰余金	5,387,209	5,922,582
自己株式	△96	△96
株主資本合計	13,087,301	13,622,674
純資産合計	13,087,301	13,622,674
負債純資産合計	14,942,281	14,807,075

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)
売上高	4,354,122	4,898,601
売上原価	2,034,729	2,181,182
売上総利益	2,319,393	2,717,418
販売費及び一般管理費	1,205,817	1,532,455
営業利益	1,113,575	1,184,963
営業外収益		
受取利息	684	719
その他	635	415
営業外収益合計	1,320	1,134
営業外費用		
支払利息	945	475
休止固定資産減価償却費	13,219	—
上場関連費用	4,276	—
営業外費用合計	18,440	475
経常利益	1,096,455	1,185,622
特別損失		
固定資産除却損	19	—
特別損失合計	19	—
税引前四半期純利益	1,096,435	1,185,622
法人税、住民税及び事業税	232,839	367,770
法人税等調整額	154,851	15,438
法人税等合計	387,690	383,208
四半期純利益	708,745	802,413

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	1,096,435	1,185,622
減価償却費	79,807	119,214
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,800	2,156
受取利息及び受取配当金	△684	△719
支払利息	945	475
売上債権の増減額(△は増加)	△25,883	△51,918
たな卸資産の増減額(△は増加)	△14,224	52,776
仕入債務の増減額(△は減少)	△53,348	△14,740
未払金の増減額(△は減少)	△44,735	△87,354
未払費用の増減額(△は減少)	△119,146	6,572
未払消費税等の増減額(△は減少)	70,124	△36,964
その他	△50,159	11,256
小計	942,930	1,186,377
利息及び配当金の受取額	687	750
利息の支払額	△946	△504
法人税等の支払額	△83,992	△481,342
営業活動によるキャッシュ・フロー	858,678	705,280
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△67,959	△537,613
無形固定資産の取得による支出	—	△10,810
貸付金の回収による収入	—	25,000
その他	△5,762	△6,913
投資活動によるキャッシュ・フロー	△73,722	△530,337
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△11,012	△8,725
配当金の支払額	△222,432	△266,774
財務活動によるキャッシュ・フロー	△233,444	△275,500
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	551,511	△100,557
現金及び現金同等物の期首残高	4,794,736	6,131,997
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,346,247	6,031,440

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。